



週間情報



No.0749(12月30日休刊)

発行日 令和7年12月23日

発行所 全国消防長会
一般財団法人全国消防協会

担当 企画部企画課 03-4500-6622

両会の動き

◆ 「令和7年度熊本県消防長会女性消防職員研修会」を実施

熊本県消防長会（熊本）

熊本県消防長会では、令和7年12月5日（金）、「令和7年度熊本県消防長会女性消防職員研修会」を実施しました。

この研修会は、消防本部の垣根を越えた意見交換を通じて、日常の業務で抱えるさまざまな課題や対策を共有するとともに、女性職員同士の親睦を深めることを目的として実施したもので、熊本県での開催は3回目となります。

当日は、県内12消防本部から51人の女性職員が参加し、総務省消防庁女性消防吏員活躍推進アドバイザーの林はるよ氏（熊本市消防局予防課副課長）と、産業心理カウンセラーの又吉弥篤氏を講師としてお招きし、女性消防吏員の活躍推進に向けた取り組みについてご講演いただきました。

また、講演後には、2つのテーマについてグループディスカッションを実施し、活発に意見交換しました。

今後も、女性が働きやすい職場環境づくりに積極的に取り組んでまいります。



【研修会の様子】



【研修会後の記念撮影】

◆ 「消防実務講習会（警防）」を開催

一般財団法人全国消防協会近畿地区支部

一般財団法人全国消防協会近畿地区支部では、令和7年12月10日（水）、兵庫県神戸市において、「消防実務講習会（警防）」を開催しました。

講習会では、第1講義に、西日本高速道路パトロール関西株式会社の西野仁課長より、「基本の重要性和強固な安全～誰もが安心する安全を目指し～」と題し、高速道路上での活動における受傷事故防止対策の取り組みや高速道路上での関係機関との連携要領の説明など、貴重なお話を伺いました。

第2講義では、姫路市消防局の山口晋吾係長より、「緊急走行VRを活用した交通事故防止対策」と題し、緊急走行VR作成の経緯やVRを活用した検証実験など効果的な取り組みについて詳しくご説明いただきました。

今後も、警防技術のさらなる向上を目指し、さまざまな取り組みを続けてまいります。



【講習会の様子】

消防本部の動き

行事

◆ 「大規模災害時における宿泊施設の使用に関する協定」を締結

千曲坂城消防本部（長野）

千曲坂城消防本部では、令和7年12月3日（水）、戸倉上山田温泉旅館組合連合会と「大規模災害時における宿泊施設の使用に関する協定」を締結しました。

この協定は、管内において大規模災害が発生した場合に、緊急消防援助隊などの応援隊を受け入れる際、必要な宿泊施設を円滑に使用できることを目的として締結したものです。

この締結により、受援体制の強化と応援隊員の負担軽減が期待されます。



【協定締結の様子】



【協定締結式後の記念撮影】

◆ 次世代型消防指令車（PHEV）寄贈式を実施

若狭消防組合消防本部（福井）

若狭消防組合消防本部では、令和7年12月3日（水）、小浜信用金庫から寄贈いただいた次世代型消防指令車（PHEV）の寄贈式を実施しました。

この寄贈は、同信用金庫が創立100周年を迎え、記念事業の一環として実現したものです。

この寄贈車両は、脱炭素社会の実現と地域防災力の強化を見据えたPHEV車で、災害現場への迅速な移動に加え、停電時の電源供給や静音性を生かした夜間活動にも対応することができます。

また、車内には必要資機材を搭載し、よりの確かつ迅速な災害対応が可能となり、北陸三県で初の導入となりました。

今後も、地域の安全・安心のため、装備の充実化を進めてまいります。



【寄贈式後の記念撮影】



【寄贈された消防指令車】

訓練

◆ 消防団と合同訓練を実施

湖南広域消防局（滋賀）

湖南広域消防局では、令和7年11月23日（日）、草津市消防団と合同訓練を実施しました。

この訓練は、建物火災における消火技術の向上を図るとともに、火災現場における活動隊と現場指揮本部の連携体制を強化することを目的として実施したものです。

当日は、西消防署員が監察員となり、同消防団の全分団がホースカーを活用したホース延長をはじめ、機関運用、IP無線機を活用した情報収集、現場指揮本部における活動要領を確認し、訓練終了後には、西消防署長が訓練講評を行いました。

今後も、合同訓練を継続し、消防団と連携した活動体制の強化に努めてまいります。



【訓練の様子】



【講評の様子】

◆ 他消防局と重機運用合同訓練を実施

取手市消防本部（茨城）

取手市消防本部では、令和7年11月25日（火）、当消防本部の多種災害訓練施設において、柏市消防局（千葉県）と重機運用合同訓練を実施しました。

この訓練は、大規模災害時の消防活動体制の強化を図るため、平成25年3月に総務省消防庁から重機および重機搬送車が無償貸与され、災害重機機動部隊を発隊した当消防本部と令和4年6月に消防活動用重機を整備した柏市消防局が、重機を活用した連携体制の確立とさらなるスキルアップを図ることを目的として実施したものです。

当日は、重機資格保有者12人が参加し、基本操縦要領の反復訓練を中心に、搬送車から重機の乗降や土砂・重量物の移動操作を実施しました。

今後も、住民の安全・安心の負託に応えるべく、合同訓練を継続し、他消防局との連携強化と技術の向上を図るとともに、防災・減災に努めてまいります。



【訓練の様子】



【訓練終了後の記念撮影】

◆ 「令和7年度熱海合同海難救助訓練」を実施

熱海市消防本部（静岡）

熱海市消防本部では、令和7年11月25日（火）、熱海港湾内において、海上保安本部下田海上保安部、静岡県警察本部熱海警察署、伊豆小型船舶安全協会、静岡地区水難救済会静岡広域DRS、一般企業などの関係機関と「令和7年度熱海合同海難救助訓練」を実施しました。

当日は、令和6年度に当消防本部で導入された「屈折はしご付き消防ポンプ自動車」を初めて活用し、同DRS隊員が潜水活動により要救助者を海面まで引き揚げた後、同車両のバスケットに吊り下げたタイタン（担架）に収容し、救出するまでの一連の流れを関係機関と連携して実施しました。

同車両は、地上面よりもマイナス方向へのアプローチ範囲が向上しており、従来の車両にはなかった柔軟な救助活動を行うことができる点が大きな強みとなっています。

当消防本部は、海を擁する観光地として、毎年、水難事故対策に取り組んでおり、この訓練を通じて、地域の安全と安心を守ることにつながる重要な機会となりました。



【訓練の様子】

◆ 他消防本部と合同で「大規模災害対応訓練」を実施

豊田市消防本部（愛知）

豊田市消防本部では、令和7年11月26日（水）、名古屋市消防局と合同で、「大規模災害対応訓練」を実施しました。

この訓練は、消防指揮本部の受援要領を習熟するとともに、同消防局との連携強化を図ることを目的として、初めて実施したものです。

当日は、当市を震源地とする大規模地震が発生し、県内応援部隊の受け入れを想定した消防指揮本部訓練を行い、同消防局指揮支援隊との連携要領を確認しました。

今後も、さまざまな訓練を通じて、災害対応力の向上に努めてまいります。



【訓練の様子】

◆ 「第5回国際消防救助隊四国地区合同訓練」を実施

松山市消防局（愛媛）

松山市消防局では、令和7年11月27日（木）、28日（金）の2日間、愛媛県消防学校において、「第5回国際消防救助隊四国地区合同訓練」を実施しました。

当日は、四国四県の登録隊員24人と予備隊員16人の計40人が参加したほか、医療指導員2人と京都市消防局・大阪市消防局・神戸市消防局から3人の救助指導員をお招きし、2中隊4小隊編成によるブラインド形式の想定訓練を実施しました。

想定訓練では、普段とは異なるメンバーで小隊を編成し、さまざまな事案に対して、FOG／SOP（手引き・手順）に準じたショアリングやCSR／Mなどの活動（閉鎖空間における活動）を行い、登録隊員間の連携強化につなげることができました。

今後も、発生が危惧される南海トラフ巨大地震などに対応するため、本訓練で習得した救助技術を自所属の隊員へ伝承するとともに、救助技術の向上に努めてまいります。



【訓練の様子】

◆ 「安全衛生教育リスクアセスメント講習」を実施

小山市消防本部（栃木）

小山市消防本部では、令和7年12月1日（月）、「安全衛生教育リスクアセスメント講習」を実施しました。

この講習は、職務に潜むリスクを正しく見極め、危険要因を確実に排除するための知識と技術を再確認することを目的として実施したものです。

当日は、Clean Force Japan株式会社代表取締役の山崎純良氏を講師としてお招きし、座学では、リスクの捉え方や事故事例を通じて、安全管理と危険予知の本質についてご講義いただいた後、実践的な実技訓練を行い、救助隊のみならず救急隊、消防隊にとって大変有意義な講習となりました。

今後は、本講習での学びを生かし、隊員の安全確保に留意した確実な活動と二次災害の防止に全力で取り組んでまいります。



【座学の様子】



【実技訓練の様子】

◆ 「第31回救急技術研修会」を開催

神戸市消防局（兵庫）

神戸市消防局では、令和7年11月27日（木）、12月3日（水）の2日間、「第31回救急技術研修会」を開催しました。

この研修会は、救急隊員として必要な知識と技術の維持・向上を図ることを目的として、毎年開催しているものです。

当日は、当消防局の救急隊32隊と航空機動隊のほか、令和9年4月から消防指令業務を共同運用する、三田市消防本部の救急隊1隊が参加し、三次医療機関の医師をお招きして、「質の高いCPR」と「早期アドレナリン投与」をテーマに訓練を行いました。

また、両市の指導救命士が救急活動や処置の評価を行うとともに、同医師から助言をいただき、今後の現場活動に生かせる、実りある訓練となりました。



【訓練の様子】

◆ 東濃地区5市消防本部が合同で「東濃地区消防本部救助技術交換会」を実施

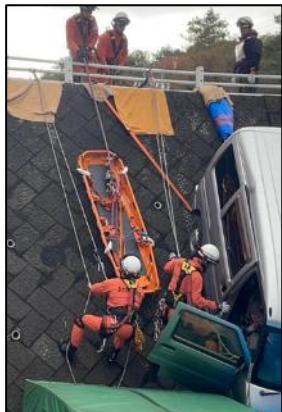
多治見市消防本部（岐阜）

多治見市消防本部では、令和7年12月5日（金）、多治見市笠原クリーンセンターにおいて、岐阜県東濃地区5市消防本部（土岐市消防本部、瑞浪市消防本部、恵那市消防本部、中津川市消防本部、当消防本部）が合同で、「東濃地区消防本部救助技術交換会」を実施しました。

この交換会は、「東濃地区消防本部相互応援協定」に基づき実施したもので、今回で11回目となります。

当日は、「約5mの崖下に車両が転落した。」との想定で、実際の事故車両を活用して、実災害に近い環境下で訓練を実施し、緊張感のある中で、各消防本部と救助方法について共有することができ、経験値の向上につながる有意義な訓練となりました。

今後も、東濃地区5市消防本部で合同訓練を継続し、起こりうる大規模災害に備えるため、連携強化に努めてまいります。



【訓練の様子】



【講評の様子】

◆ 一般市民参加型の多数傷病者対応訓練を実施

湖北地域消防本部（滋賀）

湖北地域消防本部では、令和7年12月5日（金）、米原市天満の米原消防署において、長浜赤十字病院のドクターカーおよび京滋ドクターヘリと合同で、一般市民参加型の多数傷病者対応訓練を実施しました。

この訓練は、複数の傷病者の重症度や緊急度を短時間で判断し、他機関と連携して適切な医療機関に搬送することを目的として実施したものです。

当日は、「マイクロバスと普通乗用車の交通事故が発生した。」との想定で、現場の安全管理や情報収集などを行いながら、傷病者の迅速なトリアージ、高度な医療処置、搬送を実施しました。

また、初の試みとして、募集した市民の方々に要救助者役でご参加いただき、外傷シールなどを活用したことで、より実践的な訓練となりました。

今後も、他機関との連携強化を図るとともに、円滑な現場活動に努めてまいります。



【訓練の様子】



【訓練後の記念撮影】

◆ 「消防相互援助協定」に基づき、合同消防訓練を実施

佐世保市消防局（長崎）

佐世保市消防局では、令和7年12月8日（月）、米海軍佐世保基地と締結している「消防相互援助協定」に基づき、合同消防訓練を実施しました。

この訓練は、同基地消防隊と当消防局消防隊の警防技術の錬磨と連携強化を図ることを目的として実施したものです。

当日は、「延焼中の中高層建物に逃げ遅れ者がいる。」との想定で、同協定に基づき、同基地から当消防局へ援助要請が実施され、それぞれの消防隊が連携した火災防ぎょ活動を行いました。今後も、定期的に合同訓練を実施し、関係機関との連携強化に取り組んでまいります。



【訓練の様子】

◆ 多数傷病者発生現場を想定した救急演習を実施

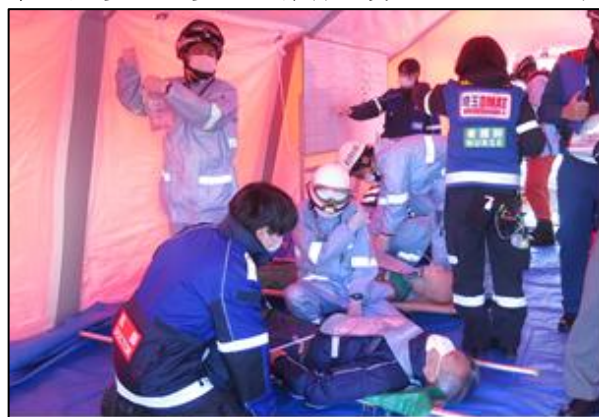
埼玉県央広域消防本部（埼玉）

埼玉県央広域消防本部では、令和7年12月9日（火）、鴻巣消防署において、北里大学メディカルセンターDMATと合同で、多数傷病者発生現場を想定した救急演習を実施しました。

この演習は、多数傷病者発生事案に対する、トリアージ、救急処置、搬送方法を再確認するとともに、他機関との連携体制の強化を図ることを目的として実施したものです。

当日は、約90人が参加し、「無差別殺傷事件により多数の傷病者が発生した。」との想定で、限られた人員と資機材を最大限に有効活用しながら、各隊が連携した活動を行うことで、効率的な現場対応力の向上を図ることができました。

今後も、災害対応能力の向上を図るとともに、住民の安全・安心の確保に努めてまいります。



【演習の様子】

研 修

◆ 「働きやすい職場づくり研修」を実施

埼玉西部消防局（埼玉）

埼玉西部消防局では、令和7年11月25日（火）、所沢中央消防署において、「働きやすい職場づくり研修」を実施しました。

この研修は、職員一人一人が働きやすい職場づくりを醸成することを目的として実施したものです。

当日は、女性消防吏員活躍推進アドバイザーの須藤友彦氏を講師としてお招きし、働きやすい環境を作るための効果的な取り組みや女性消防吏員の活躍推進に関する正しい知識などについて、ご講義いただきました。

今後も、職員間の信頼関係を構築するとともに、働きやすい職場づくりに尽力してまいります。



【研修の様子】

◆ 予防研修（スプリンクラー設備について）を実施

駿東伊豆消防本部（静岡）

駿東伊豆消防本部では、令和7年11月25日（火）、26日（水）の2日間、サンコー防災株式会社にご協力いただき、予防研修（スプリンクラー設備について）を実施しました。

当日は、当消防本部職員による座学研修を行った後、消防設備士の資格を保有する同社社員から、同施設のスプリンクラー設備の設置方法、仕組み、操作方法、構成機器類について、ご説明いただきました。

この研修を通じて、消防用設備等の知識および技術を習得するとともに、予防技術と現場対応能力の向上を図ることができました。



【研修の様子】

◆ 口頭指導技術訓練を実施

水俣芦北広域行政事務組合消防本部（熊本）

水俣芦北広域行政事務組合消防本部では、令和7年11月26日（水）、城南ブロック消防本部協議会の消防本部（八代広域行政事務組合消防本部、人吉下球磨消防組合消防本部、上球磨消防組合消防本部、水俣芦北広域行政事務組合消防本部）が合同で、緊急通報受信時における口頭指導技術訓練を実施しました。

この訓練は、通信指令員の口頭指導技術の向上を図るとともに、傷病者の救命率を高めることを目的として実施したものです。

当日は、各消防本部の通信指令員が救急事案の聴取と傷病者の状態に応じた口頭指導をブラインド形式で実施し、大変有意義な訓練となりました。

今後も、地域全体の救命率の向上につなげることを目標に、城南ブロック消防本部協議会で協力を深めるとともに、消防力の強化に努めてまいります。



【訓練の様子】

◆ 「令和7年度山口・防府地域MC協議会事後検証会」を開催

防府市消防本部（山口）

防府市消防本部では、令和7年11月27日（木）、当市役所8階の防府市文化センターにおいて、「令和7年度山口・防府地域MC協議会事後検証会」を開催しました。

当日は、地域MCや県域を越えた消防本部から多くの方が参加し、山口県警察本部防府警察署刑事第一課長の重本和昭氏を講師としてお招きし、救急活動の妨害行為について、自身の体験を基にご講義いただきました。

また、山口県立総合医療センター総合周産期母子医療センター長の佐世正勝氏を講師としてお招きし、産科領域の教育講演として、分娩に係る産婦と新生児への対応についてご講演いただきました。

これらの講演を通じて、救急現場における活動方針、安全管理、情報収集方法などについて理解を深めることができ、現場に即した有意義な検証会となりました。

今後も、現場が必要とする題材で検証会を開催し、多様化する社会に柔軟に対応できる人材育成と効果的な救急体制の構築を図るとともに、救急業務の質と市民サービスの向上に努めてまいります。



【検証会の様子】

◆ 「三河中核市女性消防職員合同意見交換会」を開催

岡崎市消防本部（愛知）

岡崎市消防本部では、令和7年12月2日（火）、豊橋市役所において、豊橋市消防本部、豊田市消防本部と合同で、「三河中核市女性消防職員合同意見交換会」を開催しました。

この意見交換会は、同様の課題を認識し、組織体制が異なる隣接する同規模消防本部間で交流を図り、女性職員のキャリア形成に寄与することを目的として、初めて開催したものです。

当日は、第1部に、各消防本部の職員からキャリアパス・ロールモデルの紹介を行い、他消防本部の女性職員のキャリアを聞いたことで、さまざまな選択肢を知ることができました。

また、第2部では、「女性消防職員が働きたいと思える職場とは」、「職場における小さな成功体験の共有」の2つのテーマについてグループワークを行い、活発な意見交換が交わされ、3市消防本部の職員間で、顔の見える関係の構築につながる大変有意義なものとなりました。



【意見交換会の様子】



【意見交換会後の記念撮影】

◆ 「新ごみ処理施設」において職員教養を実施

鯖江・丹生消防組合消防本部（福井）

鯖江・丹生消防組合消防本部では、令和7年11月26日（水）、12月3日（水）の2日間、「新ごみ処理施設」において、鯖江広域衛生施設組合と荏原環境プラント株式会社にご協力いただき、職員教養を実施しました。

この教養は、令和8年4月から「新ごみ処理施設」が稼働することに伴い、施設概要と消防用設備等について知識を深めることを目的として実施したものです。

当日は、座学でごみ処理施設における出火原因と対策についてご講義いただいた後、現地実習では、プラント施設における「受け入れごみ」の流れ、ごみピット、焼却炉、消防用設備等についてご説明いただきました。

この教養を通じて、近年、ごみ処理施設でリチウムイオン電池の混入による火災が発生していることを再認識し、火災を未然に防ぐためには、地域住民に「正しいごみの出し方」を呼びかけることが重要であると実感しました。

今後は、本教養を礎に、迅速かつ確実な消防活動につなげてまいります。



【教養の様子】

◆ 「人材育成およびハラスメントに関する研修」を実施

館林地区消防組合消防本部（群馬）

館林地区消防組合消防本部では、令和7年12月4日（木）、「人材育成およびハラスメントに関する研修」を実施しました。

この研修は、人材育成の重要性と職員間におけるハラスメントの認識に相違があることについて理解を深めるとともに、共通認識を醸成し、コミュニケーション体制の改善につなげることを目的として実施したものです。

この研修を通じて、人材育成やハラスメント防止の重要性を改めて認識し、職場環境改善に向けた具体的な行動を共有することができました。

今後も、研修で得た知識を生かし、組織全体の成長に貢献してまいります。



【研修の様子】

◆ 「第16回救急隊長研修」を実施

奥州金ヶ崎行政事務組合消防本部（岩手）

奥州金ヶ崎行政事務組合消防本部では、令和7年12月2日（火）から5日（金）までの4日間、消防士長に昇任した職員を対象とした、「第16回救急隊長研修」を実施しました。

この研修は、救急隊長として必要な知識および技術を再確認するとともに、部隊内の技能管理能力の向上を図ることを目的として、毎年実施しているものです。

当日は、当消防本部の職員5人が受講し、各医療機関の医師、看護師、助産師および指導救命士の指導の下、病態判断や分娩対応などの救命処置要領のほか、救急隊長の役割や活動困難対応要領など、救急隊長として求められる管理技能について履修しました。

また、最終日には、受講者自らが考案した想定訓練の運営を行い、部隊内の教育に必要な手法を学ぶことができ、実りある研修となりました。



【研修の様子】



【研修終了後の記念撮影】

◆ 他本部に対する有害物質からの防護研修を実施

奈良県広域消防組合消防本部（奈良）

奈良県広域消防組合消防本部では、令和7年12月4日（木）、5日（金）の2日間、岡山市消防局の消防職員を対象とした、有害物質からの防護研修を実施しました。

この研修は、令和7年2月に、当消防本部において「有害物質からの防護マニュアル（火災対応編）」を策定し、同消防局から研修の申し出を受けたことから、初めて対外的に実施したものです。

当日は、当消防本部職員が講師となり、同マニュアル策定の経緯から策定後の課題に至るまでの内容について説明し、職員に対する有害物質からの防護の必要性を共有したほか、地域特性などによる効果的なマニュアル策定などについて検討を行い、大変有意義な研修となりました。

今後も、さまざまな消防本部と情報共有を図るとともに、火災による有害物質からの防護を通じて、職員の安全管理体制の強化に努めてまいります。



【研修の様子】

◆ 県内全消防本部が合同で「事故車両現場対応研修」を実施

東広島市消防局（広島）

東広島市消防局では、令和7年12月5日（金）、「株式会社ころーど」にご協力いただき、広島県内全消防本部が合同で「事故車両現場対応研修」を実施しました。

当日は、大型車両の事故に備えるため、実際の大型車両を活用し、ブレーキチャンバーの解除方法やリアシャフトの取り外し方法について確認した後、安全確保を徹底しながら、職員同士が連携して各工程を行い、交通事故における実践的な技術を習得することができました。

また、研修後には、意見交換を行い、対応手順の確認と今後の課題を共有しました。

この研修を通じて、実際の現場さながらの状況における活動を体感したことで、大型車両への理解をより深めることができ、消防本部間の連携強化や安全・迅速な対応能力の向上につながる有意義な機会となりました。

今後は、本研修で得た知見を、訓練や現場活動へ積極的に反映してまいります。



【研修の様子】



【研修後の記念撮影】

◆ 「ゲートキーパー養成研修会」を実施

渋川広域消防本部（群馬）

渋川広域消防本部では、令和7年12月8日（月）、9日（火）の2日間、自殺予防に伴う「ゲートキーパー養成研修会」を実施しました。

当日は、渋川保健福祉事務所保健係の職員を講師としてお招きし、救急現場における自殺企図者に対する接し方、身近な方の変化に気づくポイント、声かけ（聴く）要領、必要に応じて専門家に相談する方法などについてご講義いただきました。

また、ゲートキーパーとしての対応をロールプレイング形式で行い、慣れない相談などで困惑する職員も見られましたが、さまざまな学びを得ることができ、大変有意義な研修会となりました。

今後も、研修会を継続し、円滑な救急活動と誰もが安心できる職場環境の構築を目指してまいります。



【研修会の様子】

その他

◆ 避難訓練を実施

東京消防庁（東京）

東京消防庁小平消防署では、令和7年11月24日（月）、ルネこだいら（小平市民文化会館）において、避難訓練を実施しました。

当日は、約250人の観客が参加し、「ジャズバンドのコンサート中、大規模な地震により火災が発生した。」との想定で、地震発生時には身を守る体勢をしっかりと取り、火災発生時には自衛消防隊の誘導により、落ち着いてスムーズに屋外まで避難することができました。

参加者から、「いつ災害が起きるかわからないため、日頃からの備えが大切だと思います。」、「防火防災への意識づけになりました。」との感想を聞くことができました。



【避難訓練の様子】

◆ 大韓民国の消防団と国際交流会を実施

岸和田市消防本部（大阪）

岸和田市消防本部では、令和7年11月25日（火）、大韓民国の消防団と国際交流会を実施しました。

当日は、大韓民国の消防団員40人が来訪し、当市消防団長からあいさつをいただいた後、今年度から運用している「ゆめみヶ丘防災センター」の案内や当消防本部の車両を紹介し、たくさんの写真を撮りながら楽しむ姿を見ることができました。

また、お互いの防災事情などについて情報交換し、当消防本部にとって有意義な国際交流会となりました。



【記念撮影の様子】

◆ 「消防・防災フェスタ2025 in みうら」を開催

横須賀市消防局（神奈川）

横須賀市消防局では、令和7年12月7日（日）、三浦市防災危機対策室、三浦市消防団、三浦市防火・防災クラブ、三浦危険物安全協会にご協力いただき、「消防・防災フェスタ2025 in みうら」を初めて開催しました。

当日は、多くの方が来場し、地震体験車やはしご車の搭乗体験、ポンプ車による放水体験、ARゴーグルを使った火災模擬体験など、多彩な体験型コーナーを設け、楽しみながら消防・防災の大切さや火災予防について学ぶ貴重な機会となりました。

また、訓練施設において、特別救助隊が救助訓練を披露し、迫力ある実演に多くの方が見入るなど、会場は大いに盛り上がりしました。

今後も、地域の防火・防災の普及啓発に努めてまいります。



【イベントの様子】

消防学校からの便り

◆ 「災害発生時における外国人の避難支援等に関する講義」を実施

青森県消防学校（青森）

青森県消防学校では、令和7年12月8日（月）、公益社団法人青森県観光国際交流機構にご協力いただき、専科教育警防科の学生を対象とした、「災害発生時における外国人の避難支援等に関する講義」を実施しました。

当日は、学生30人が参加し、青森県庁の国際交流員の外国人3人（アメリカ、韓国、台湾）を講師としてお招きして、青森県内に在住する外国人の現況、災害時に必要な支援、スマートフォンアプリを活用したコミュニケーションスキル等について、ご講義いただきました。

この講義を通じて、災害発生時に日本語を話せない外国人を支援するため、さまざまなツールを活用した避難支援方法等を実践的に学ぶことができ、必要な知識を習得することができました。

今後も、効果的な教育訓練を目指し、講義内容等の充実に努めてまいります。



【講義の様子】

国等の動き

消防庁通知等

◆ 林野火災の残火処理等における消火薬剤の活用について（通知）

（消防災第158号、消防広第407号、消防予第552号、
消防特第255号、令和7年12月16日）

消防庁防災課長、消防庁広域応援室長、消防庁予防課長、消防庁特殊災害室長から各都道府県消防防災主管部長あてに通知が発出されましたので、お知らせします。

平素より消防防災行政の推進に御尽力を賜り、厚く御礼申し上げます。

本年2月の大船渡市林野火災を踏まえ、消防庁では、「大船渡市林野火災を踏まえた消防防災対策のあり方に関する検討会」を開催し、報告書を取りまとめたところです。

—以下省略—

○ 全文は、消防庁ホームページ

(https://www.fdma.go.jp/laws/tutatsu/items/251216_yobou_01.pdf) に掲載されています。

報道発表

◆ 危険物の規制に関する規則の一部を改正する省令（案）等に対する意見公募

（令和7年12月12日、消防庁）

消防庁は、危険物の規制に関する規則の一部を改正する省令（案）等について、令和7年12月13日（土）から令和8年1月16日（金）までの間、意見を公募します。

—以下省略—

○ 全文は、消防庁ホームページ

（https://www.fdma.go.jp/pressrelease/houdou/items/251212_kiho.pdf）に掲載されています。

（事務連絡先）

消防庁予防課危険物保安室 石野補佐、鈴木

TEL 03-5253-7524（直通）

E-mail:fdma.hoanshitsu_atmark_soumu.go.jp

※スパムメール対策のため、「@」を「_atmark_」と表示しております。送信の際には「@」に変更してください。

機関誌「ほのお」記事募集

一般財団法人全国消防協会では、機関誌「ほのお」に関して、各消防本部より次の投稿記事を募集しています。

①トップ・セカンド記事

②知識・技術の伝承—教えて！消防技術—

③女性職員の活躍推進

※①・②・③の執筆要領等の詳細は、週間情報（No.0716）1ページ、機関誌「ほのお」2025年4号（4/25発刊）29ページを参照願います。

TEL：03-4500-6622 機関誌「ほのお」担当：企画課 中西

原稿データは、kikakoho@fcj.gr.jpに送信願います。

④消防ワイド

【特徴】

- ・写真中心のビジュアルな広報
- ・紙媒体により記録性に優れる広報

【留意事項】

- ・文章は、Wordで100文字程度で作成をお願いします。
- ・写真は、Wordに貼り付けず、JPEG画像データを1枚送付してください。
- ・消防ワイド、週間情報の両方に投稿された場合、どちらか一方のみの掲載となります。

TEL：03-4500-6622 機関誌「ほのお」（消防ワイド）担当：企画課 中西

原稿データは、honoo@ffaj-shobo.or.jpに送信願います。

ご投稿をお待ちしております。

※添付ファイルの容量が5MBを超える場合は、分割して送信願います。

週間情報への投稿は企画課へ！

週間情報では、各消防本部の身近な情報を掲載していますので情報をお寄せください。

【特徴】

- ・原則毎週刊行される、速報性のある広報
- ・文章中心の情報量が多い広報

【留意事項】

- ・配信日（原則火曜日）から前2週間以内のイベント、訓練等を中心に掲載しています。
- ・文章は、Wordで200～400文字程度で作成をお願いします。
- ・写真は、1～2枚をWordに貼り付けて送付してください。
（貼り付けできない場合は、JPEG画像データを送付してください。）
- ・週間情報、消防ワイドの両方に投稿された場合、どちらか一方のみの掲載となります。
- ・掲載が決定した場合のみ、担当者からメールを返信させていただきます。

TEL：03-4500-6622「週間情報」担当：企画課 吉田

原稿データは、weekly@fcaj.gr.jpに送信願います。